

参院厚労委、年金で公聴会 空洞化対策の指摘相次ぐ

参院厚生労働委員会は31日、横浜市で年金制度改革関連法案について地方公聴会を開いた。6人の公述人が法案に賛否両論を述べたが、未納・未加入問題の深刻化を背景に国民年金や厚生年金の空洞化対策の不備を指摘する声が目立った。神代和俊・横浜国立大名誉教授は法案を「少子高齢化社会が進んでも持続可能な制度にする改正だ。寿命の延びなどに応じ給付水準を抑制するスウェーデン方式の良い点を取り入れた」と評価、今国会での成立を求めた。鈴木和行・神奈川県社会保険委員会連合会会長は法案成立に理解を示したが「制度への不信感から保険料を支払わない人が多い。基礎年金の税方式化を視野にした抜本改革が必要だ」と述べた。広瀬幸一・同県社会保険労務士会理事は「年金制度は継ぎはぎのパッチワーク。複雑で専門家しか理解できない」と批判し、制度一元化を主張。岡本一・同県労働組合総連合副議長は「国民、厚生両年金とも空洞化を加速させる法案」とし、リストラなどで労働者が不安定な立場に置かれており「保険料を支払えない人が急増している」と指摘した。

2004/05/31 09:15 【共同通信】